

写真に関する 2017 年のテーマと雑想

2017 年 4 月 1 日

写真好學研究所

柵屋善則

1 はじめに

去る 3 月 12 日に写真好學研究所写真展を終え、解散時に松原所長から発せられた言葉「今年のテーマは風景」、それが脳裏に残っていた。その翌週には「風景」について思いを巡らせながら神社を巡っていた。ここでは、今年(2017 年)の写真に関する私のテーマを次のように定め、それぞれについて記す。

- a) 風景についての考察
- b) お伊勢さん 125 社まわりを中心としたブログ「神宮巡々2」の運営、写真掲載
- c) 「社窓の風景」写真、オミアゲ写真
- d) SNS を利用した「モノクロームな日々」の展開
- e) 展示方法の研究
- f) 記録写真についての勉強と資格取得
- g) アーカイブについての勉強

2 各テーマと雑想

ここでは各テーマについてそれぞれに雑想した内容を記す。

2.1 風景についての考察

まずは「風景」について考察する。先に述べたように写真展の翌週、3月18日にはライフワークともなっているお伊勢さん125社めぐりで朝から夕方まで玉城町を歩いていた。歩きだと目的地への移動時間が長く、さまざまなことに思いを巡らすことができる。この日は「風景」について考えながらウロウロしていた。その夢想(?)の記録がこちら、ブログに掲載した記事の冒頭部分、記事とは余り関係のない枕となっている。

2017年03月18日(土) 「社窓の風景」を求めて、お伊勢さん 125 社まわり、外城田・田丸めぐり (車、徒歩) より抜粋

(<http://www2.jingu125.info/2017/03/19/post-56005/>)

先週の日曜日で終了した「写真好學研究所写真展」、写真展は終了したが、新たな活動はすでに始まっている。所長である松原豊さんが発した今年のテーマは「風景」。まずは「風景」について研究生みんなで語り合おうと・・・。

ところが私は頭より足が先に出てしまうタイプ。その解(?)を求めるために外へ出た。

松原さんが「風景」との言葉を発した時、私は何とも言えない不思議な気持ちになっていた。実は私が温めているテーマのひとつだったから。私の場合、神社を巡ることが多いので、車窓の風景ならぬ社叢の風景、さらに発展させて神社の杜の窓からの風景、つまり社窓の風景を撮りたいを思っていた。そこには「モノクロームな日々」で多用している「オミアゲ写真」も加えて・・・

そんな理由から「風景」について考える前に歩き出してしまったのだった。なぜに外城田・田丸めぐり? については別の記事で紹介することとし、ここでは「社窓の風景」を撮影するためにめぐった記録を残しておこう。

しかし、歩いていると目的地間を移動するのに時間がかかるため、いろいろと考えてしまう。「風景」についても少し考えてみた。風景について考える際、関連する言葉から攻めてみると「光景」「景色」「絶景」「景観」などいくつかの言葉を思いつくことができる。それぞれの相違を考えると「風景」が意味するところが見えて来るかも知れない。そんなことを考えながら歩いているとそれでは英語では・・・、「landscape」「view」「scene」「sight」など・・・

そう言えば「landscape」は「portrait」の対語で、それぞれ「横置き」「縦置き」を表している。

ここで思い出したのが、写真好學研究所写真展にご来場いただいた写真家 北出正之さんの一言「柵屋さんは、縦づかいが多いですね!」だった。

どうやら私は「landscape」よりも「portrait」派なのだろうか。すると風景写真には向いていない?

結局はこんなことを考えながら歩いていただけで「風景」とはについて深く考えていなかったようだ・・・

とにかく、玉城町役場を出発すると一部多気町との境界付近をウロウロしながら玉城町をぐるりと巡った。今回訪れた神社ほかはこちらで

玉城町役場 ～ 田丸神社 ～ 坂手国生神社 ～ 棒原神社 ～ 御船神社・牟弥乃神社 ～ 真念寺 ～ 朽羅神社 ～ 蚊野神社・蚊野御前神社 ～ 東外城田神社 ～ 田乃家神社・田乃家御前神社 ～ 津布良神社 ～ 鴨神社 ～ 田宮寺神社 ～ 鴨下神社 ～ 奈良波良神社 ～ 小社神社 ～ 佐田山稻荷大明神 ～ 狭田国生神社 ～ JR 参宮線 田丸駅 ～ 玉城町役場
→ 番外 [河原淵神社](#)
(※お伊勢さん 125 社は [青文字](#)、 → 車、～ 徒歩)

ここでは、このブログ記事の内容を受けて、改めて「風景」について考えてみた。

この記事でも述べたように「風景」に関連する言葉は多数ある。しかし、それぞれを区別することはなかなか難しい。そこで私が思い当たる風景に関連しそうな英単語に注目してみると、それらは「Landscape」「Scene」「View」の3種類。「Sight」もあるが今回は対象から外しておこう。これら3つの単語を辞書で引くといずれにも「風景」なる言葉が日本語訳として現れる。

それでは、この3つの単語にはどんな違いがあるのだろうか？ ここからは私の独断と偏見にてその解釈を試みた。まず「View」には見る側の意志が強く働いているように思える。どこから何をどのように見るのか。見る人がすべてを決定している。つぎに「Scene」はどうだろうか。私のイメージでは映画のワンシーンのようにこちらは見せる側の意図が大いに反映されているように思える。このように「View」と「Scene」には相反はするもののそれぞれの立場からの強力な意図が働いているように思える。では残された「Landscape」はどうだろうか？ 私のイメージでは全ての意図から解放された自然な姿、見る側にも見る意識はなく、見えている状態にある。もしかしたら見えていることも意識していないような…。それゆえ当然ながら見せる立場は存在しない。では日本語の「風景」とはどの英単語に当てはまるのだろうか？

これも感覚的な判断となってしまうが「風景」は「Landscape」に近いのではないだろうか？つまり、見るものではなく意図せず当たり前のように存在するもの勝手に見えるもの、いや見えているもの、もつと極端に言えばただそこに在るだけである。それならば風景と写真とは相容れないものなのではないか。なぜなら写真は切り取り作業であり撮影者による強力な意図が随所に働いているから。もし、風景写真と呼ばれるジャンルがあるとすれば、それは撮影者の意図が反映されない写真なのだろう。つまり、風景と一体化した者だけに許されるのが風景写真の世界ではないだろう。

ここで今一度、「風景」の意味について考えてみる。「風景」を構成する文字は「風」と「景」、それではこれらの意味は何だろう。広辞林(広辞苑ではない)を紐解くと「風」は[①気圧の変化などによって起こる空気の流動]の次に[②さま、けはい、様子]とされ、「景」は[①けしき][②けいぶつ]とされている。ここで「②けいぶつ」とは「景物」であり[①四季折々の風物][②その折の興を添える珍しいもの]とある。つまり「風景」とはこんなもの、先の夢想もあながち間違っていないようだ。

このような理由から風景は撮影できないのかも知れない。もしどうしても風景を撮影したいのであれば撮影者はその中に一体化し、自らのその風景の一部になり特別な感情あ意図を持たずに当たり前のように自然にシャッターを切る、いや切ってしまうている。これが風景を撮影するということか…。

現時点ではこんなレベルでしか「風景」を理解できない。理解するものではないのかも知れない。

2.2 お伊勢さん 125 社まわりを中心としたブログ「神宮巡々2」の運営、写真掲載



こちらは今となつては私のライフワークのような活動となっている。お伊勢さん 125 社とは伊勢神宮(正式な呼称は「神宮」)に属する 125 の宮社のことであり、正宮と呼ばれる内宮および外宮のほか、別宮さらには摂社・末社。所管社にて構成される。こらら 125 の宮社を巡ることがお伊勢さん 125 社めぐりで、ただめぐりだけなのだが実に奥が深いものだ。

125 社に関する解説はここでは省略するが、なぜ私はこの「お伊勢さん 125 社まわり」を始めたのか? そのキッカケについては、次のブログ記事に記されている。

ブログタイトル : 今年の初詣が 125 社まわりの始まり 2010 年 01 月 02 日(土)

ブログリンク : <http://jingu125.info/2010/01/02/0001/>

それは実に単純な理由であったのだが、それが未だに続いている。その理由は面白いからに過ぎない。

最初は文章のみで始まったブログだが、1 ヶ月ほどすると文章のみでの展開に限界を感じた私は中古のコンデジ(コンパクトデジタルカメラ)を買い求めた。そのことが今に至る原点だと思われる。だから、私が写真を撮ることとお伊勢さん 125 社まわりは切っても切れない縁で結ばれている。

神宮では平成 25 年(2013 年)に内宮および外宮にて御遷宮が執り行われた。これが第 62 回神宮式年遷宮であり、この時期に松原さんと出会ったのだ。世間では式年遷宮はすでに終了したと思われているが実はまだまだ続いている。正宮および別宮はすでに終了しているものの神宮には 125 宮社もあるのだから、摂社・末社・所管社の御造替(殿舎の建て替え)や大修繕は徐々に進められ平成 35 年(2023)まで続く予定となっている。

神宮は最近でこそホームページを刷新し、Facebook などでの情報公開も盛んになってきたが、摂社・末社・所管社についての話題はなかなか発信されない。ましてやそれらの御造替や大修繕についてはなおさらだ。そんな隠された(?)部分の情報提供は本ブログの役割であると考えるとなかなか止めることはできない。

2.3 「社窓の風景」写真、オミアゲ写真

続いては、「車窓の風景」ではなく「社叢の風景」いや「社窓の風景」だ。あれだけ、「風景」と「写真」は相容れないと言っておきながら、なぜ「風景」写真なのだろうか？

さまざまな神社をめぐるなか神社を包み込む森(杜)である社叢の美しさにはいつも心を奪われている。社叢を外から見れば「社叢の風景」となるのだろう。しかし、そんな風景を撮影するのは難しいことだろう。そこでヒントを得たのは「車窓の風景」だった。車窓つまりその窓枠が自然のフレームとなり、意図的ではない自然にその向こう側を切り取ってくれる。カメラはその姿をただただ写すだけ。撮影者には意図など不要だ。ビデオカメラを設置して放置しておくだけでも良いのだ。そんなことが神社でもできないか。そんなことを考えていた時に目にしたのが、神社を出る直前の風景(?)だった。それは社叢の出口が窓になっていたのだった。つまり、社叢の社窓だ。だから「社窓の風景」。これなら何とかなるかもしれない。

また、この考えにさらなる刺激を与えてくれたのが先のブログ記事で紹介した写真家の北出正之さんの一言、「柵屋さんには縦づかいが多いですね」だった。この言葉がとても気になり、今回の展示写真について調べてみると驚くことに「横が178枚、縦が173枚」と縦・横がほぼ同数だった。確かに「縦づかい」が多いと感ぜられるはずだ。

そしてこの言葉と「社窓の風景」がリンクしたのだった。縦づかいは「Portrait」、風景は「Landscape」、そうだこの相反するものを組み合わせれば面白い。「社窓の風景」は「Portrait」な「Landscape」を撮ってみよう。そんな夢想に至ったのだった。神社なら素直に一体化できそうだ。



2.4 SNSを利用した「モノクロームな日々」の展開

こちらは写真好學研究所写真展で展開した内容だから説明不要だろう。今後もFacebookやTwitterが無くなるまで続ける(?)予定なので、しばらくは止められないだろう。毎日書いている般若心経のように肅々と続けるのみである。

2.5 展示方法の研究

展示方法については今回の写真好學研究所写真展で多くの方に御迷惑をかけてしまったので、その反省の意味も含め、より良い展示方法を模索したいと思っている。そのために自宅の玄関から廊下を自宅ギャラリーとして実験の場にする予定だ。

2.6 記録写真についての勉強と資格取得

このテーマを掲げるに至ったのは、現在、川邊七種神社(伊勢市河崎)の社務所にて古文書の勉強、整理活動に参加しているからだ。この活動で指導にあたる中京大学文学部 学芸員 千枝大志さんは史料の整理・保存にはデジタルアーカイブ活用の重要性を説いている。私も記録・保存のための写真にも興味があり、一歩踏み込んで見ようと思った。

千枝さんの紹介で次の民間資格があることを知り、取得することにした。

講座種類	デジタル情報記録技術者
講座名	【資格講座】 デジタル情報記録技術者講座 『募集中!』
開催日	講義「1日」+撮影実習「1日」=全2日間 『会場、日程をお選びいただけます!』 先着順!
会場	<講義> ①または②をお選びください。 ① 5月28日(日)【東京会場】連合会館 ② 7月1日(土)【京都会場】京都教育文化センター
担当機関	<撮影実習> ③または④をお選びください。 ③【東京会場:連合会館】8月7日(月) ④【京都会場:ハートピア京都】9月10日(日) (一社)デジタル情報記録管理協会
詳細・備考	【主な授業内容】 講義1日+撮影実習1日=全2日間 -講義- 10時~17時 <開催日・会場> 【5/28(日)「東京」又は 7/1(土)「京都」】 ・資料デジタル化の基礎知識 ・デジタル化業務(仕様書作成等)に必要な知識 ・データ登録・検索とメタデータ ・著作権と権利処理 ・記録資料の真正性を確保するための知識・技術 他 -撮影実習- 10時~16時 【8/7(月)「東京」又は 9/10(日)「京都」】 ○資料撮影の基礎から応用 ・複写(真俯瞰)撮影実習 <古文書、古地図、巻物、絵画等> ・立体物撮影実習 <陶器、漆器、ガラス、仏像等> ・資料の取り扱いについて 他 ※試験はありません。 全授業にご参加ください。 ●費用について ・参加費(2日間): 20,000円 (受講料・資格認定料) ・テキスト代: 「デジタルアーカイブの資料基盤と開発技法」 <晃洋書房 2,500円(税別)> ●会場について ・連合会館: 東京都千代田区神田駿河台3-2-11 <東京メトロ『新御茶ノ水駅』徒歩0分> ・京都教育文化センター: 京都市左京区聖護院川原町4-13 <地下鉄『神宮丸太町駅』徒歩3分> ・ハートピア京都: 京都市中京区竹屋町通烏丸東入る清水町375番地 <地下鉄『丸太町駅』徒歩0分> 参加ご希望の方は下記「申込みフォーム」をクリックし、必要事項をご記入のうえ お申込みください。お申込受付後、「受講しおり」をお送りします。 (認定料支払い方法、テキスト購入方法等はしおりに記載します)
講座申込	

[デジタル情報記録技術者講座申込みフォーム](#) ← [ここをクリック](#)

2.7 アーカイブについての勉強

先の記録写真のデジタルアーカイブも含め、撮影した写真や映像を如何に観てもらえる状態にできるか。アーカイブについてはさまざまに見聞を深めたい。先に紹介した写真家 北出正之さんは長年に渡り三重県をめぐり 400 以上の祭りを撮影したそうだ。写真集ではまとめ切れないため、現在 DVD を製作していると聞いた。これも一つのアーカイブだ。目的に応じそれぞれに最適な手法があるのだろう。

最近ではクラウドへのデータの保存も盛んだか、サービスの提供が突然に停止されたらどうなるのだろうか?そんなことも考慮すべき時代となっている。保管と見せることは相容れないのか、親和するのかそんなことも考えなければならない。

3 おわりに

ここでは、「写真」の切り口での活動テーマをまとめてみた。時間と能力、さらには資金の面で十分には達成できない程のボリュームとなっているのは否めないが、まずは風呂敷を拡げてみた。

以上